

この申立書の写しは、法律の定めるところにより、申立ての内容を知らせるため、相手方に送付されます。

受付印		家事	☐ 調停 ☐ 審判	申立書 事件名	☐ 婚姻費用分担請求 ☐ 婚姻費用増額請求 ☐ 婚姻費用減額請求
		(この欄に申立て1件あたり収入印紙1,200円分を貼ってください。) (貼った印紙に押印しないでください。)			
収入印紙	円				
予納郵便切手	円				

家庭裁判所 御中	申立人 (又は法定代理人など) の記名押印	印
平成 年 月 日		

添付書類	(審理のために必要な場合は、追加書類の提出をお願いすることがあります。)	準口頭
	☐ 戸籍謄本(全部事項証明書) (内縁関係に関する申立ての場合は不要) ☐ 申立人の収入に関する資料(源泉徴収票、給与明細、確定申告書、非課税証明書等の各写し) ☐	

申立人	住所	〒 - (方)	
	フリガナ氏名	大正昭和 平成	年 月 日生 (歳)
相手方	住所	〒 - (方)	
	フリガナ氏名	大正昭和 平成	年 月 日生 (歳)
対象となる子	住所	☐ 申立人と同居 / ☐ 相手方と同居 ☐ その他 ()	平成 年 月 日生 (歳)
	フリガナ氏名		
	住所	☐ 申立人と同居 / ☐ 相手方と同居 ☐ その他 ()	平成 年 月 日生 (歳)
	フリガナ氏名		
	住所	☐ 申立人と同居 / ☐ 相手方と同居 ☐ その他 ()	平成 年 月 日生 (歳)
	フリガナ氏名		

(注) 太枠の中だけ記入してください。対象となる子は、申立人又は相手方が監護養育している子を記入してください。□の部分は、該当するものにチェックしてください。

この申立書の写しは、法律の定めるところにより、申立ての内容を知らせるため、相手方に送付されます。

※ 申立ての趣旨は、当てはまる番号を○で囲んでください。

□の部分は、該当するものにチェックしてください。

申 立 て の 趣 旨
(☐ 相手方 / ☐ 申立人) は、(☐ 申立人 / ☐ 相手方) に対し、婚姻期間中の生活費として、次のとおり支払うとの (☐ 調停 / ☐ 審判) を求めます。
※ 1 毎月 (☐ 金 _____ 円 / ☐ 相当額) を支払う。
2 毎月金 _____ 円に増額して支払う。
3 毎月金 _____ 円に減額して支払う。

申 立 て の 理 由
同居・別居の時期
昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日 同居を始めた日… 昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日 別居をした日… 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日
婚姻費用の取決めについて
1 当事者間の婚姻期間中の生活費に関する取決めの有無 ☐ あり (取り決めた年月日: 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日) ☐ なし
2 1で「あり」の場合 (1) 取決めの種類 ☐ 口頭 ☐ 念書 ☐ 公正証書 ☐ 調停 ☐ 審判 ☐ 和解 → { _____ 家庭裁判所 (☐ 支部 / ☐ 出張所) 平成 _____ 年 (家 _____) 第 _____ 号 }
(2) 取決めの内容 (☐ 相手方 / ☐ 申立人) は、(☐ 申立人 / ☐ 相手方) に対し、平成 _____ 年 _____ 月から _____ まで、毎月 _____ 円を支払う。
婚姻費用の支払状況
☐ 現在、毎月 _____ 円が支払われている (支払っている)。 ☐ 平成 _____ 年 _____ 月ころまで、毎月 _____ 円が支払われていた (支払っていた) が、その後、(☐ 減額された (減額した)) / ☐ 支払がない (支払っていない)。 ☐ 支払はあるが、一定しない。 ☐ これまで支払はない。
婚姻費用の分担の増額又は減額を必要とする事情 (増額・減額の場合のみ記載してください。)
☐ 申立人の収入が減少した。 ☐ 相手方の収入が増加した。 ☐ 申立人が仕事を失った。 ☐ 申立人自身・子にかかる費用 (☐ 学費 ☐ 医療費 ☐ その他) が増加した。 ☐ その他 (_____)